

英語が使える15歳をめざすルーブリック

		1年生			2年生			3年生			
		1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
音 読	規 準 ／ 基 準	D 正しい強勢、イントネーションで読める。 E 正しい発音で読める。 F 文字を音声化できる。		C 意味のまとまりごとに適切に区切りながら読める。 D 正しい強勢、イントネーションで読める。 E 正しい発音で読める。 F 文字を音声化できる。	B 大切などを強調して読むなど、感情表現や発話の意味を意識して読める。 C 意味のまとまりごとに適切に区切りながら読める。 D 正しい強勢、イントネーションで読める。 E 正しい発音で読める。 F 文字を音声化できる。			A 大切などを強調して読む、読む速さを変えたりするなど、感情表現や発話の意味を意識して読める。 B 大切などを強調して読むなど、感情表現や発話の意味を意識して読める。 C 意味のまとまりごとに適切に区切りながら読める。 D 正しい強勢、イントネーションで読める。 E 正しい発音で読める。 F 文字を音声化できる。			
	WPM	40語/30秒	50語/30秒	60語/30秒	100語/1分	110語/1分	120語/1分	130語/1分			
聞 く こ と	規 準	他人の自己紹介を聞いて内容を理解できる。	地域や国についてのまとまりある紹介文を理解できる。	外国の話(50語程度)を聞いて、内容を理解できる。	週末にしたこと(100語程度の会話)を聞いて、内容を理解できる。	外国の話(100語程度)を聞いて、内容を理解できる。	説明文(50語程度)を聞いて、内容を理解できる。	ニュースを聞いて内容(いつ、どこで、何が起こったか)を理解できる。	簡単なスピーチ(100語程度)を聞いて、内容を理解できる。	電話での会話(100語程度)を聞いて、内容を理解できる。	
	基 準	A 正確に情報を聞き取ることができる。 B 要点と概要を聞き取ることができる。 C 話題を把握することができる。 ☆ それぞれの時期の習得の程度に応じたリスニング教材を用意し、「正確な聞き取り」「適切な聞き取り」に関する質問10問の回答を評価します。方略的要素は、パフォーマンス課題によって評価します。									
話 す こ と	規 準	5文で自己紹介ができる。	自分の家族や地域の紹介が5文程度でできる。	学校生活を5文程度で紹介できる。	現在形、過去形を用い、自分について8文程度で話せる。	Show and Tellで何かを紹介できる。	A A A (Answer, Add, Ask)を用いて会話運びができる。	A A A (Answer, Add, Ask)を用いてインタビューができる。	ある話題について、自分の考えを述べ、話し合いができる。	ある話題について、賛否両方の立場から意見を言える。	
	基 準	A	顔をあげて言える。	顔をあげ、適切なジェスチャーを交えて覚えて言える。	顔をあげ、聞き手に視線を配りながら、適切なジェスチャーを交え、覚えて紹介できる。	顔をあげ、聞き手に視線を配りながら、適切なジェスチャーを交え、覚えて紹介できる。	顔をあげ、聞き手に視線を配りながら、適切なジェスチャーを交え、覚えて紹介できる。	A A A (Answer, Add, Ask)を用いて会話運びができる。	A A A (Answer, Add, Ask)を用いてインタビューができる。	A A A (Answer, Add, Ask)を用いて自分の意見と根拠が言える。	自分の意見を両方の立場で言える。
		B	覚えて言える。	顔をあげて、覚えて言える。	顔をあげ、適切なジェスチャーを交え、覚えて言える。	顔をあげ、聞き手に視線を配りながら、覚えて言える。	顔をあげ、聞き手に視線を配りながら、覚えて言える。	適切に受け答えをし(Answer)、自分からも質問できる(Ask)。	適切に受け答えをし(Answer)、自分からも質問できる(Ask)。	適切に受け答えをし(Answer)、自分からも質問できる(Ask)。	賛否どちらかの立場で自分の意見を述べ、その根拠が言える。
		C	メモを見ながら言える。	メモを見ながら言える。	メモを見ながら言える。	一部でも内容を覚えて言える。	一部でも内容を覚えて言える。	質問に答えられる。	準備して質問できる。	意見を言える。	賛否を伝えられる。
書 く こ と	規 準 ／ 基 準	自己紹介ができる。	家族を紹介する文が書ける。	学校生活にふれた紹介文が書ける。	身近な日本文化の紹介文が書ける。	自分のしたいことと理由を紹介できる。	伝統文化を1つ紹介できる。	1つの国を選んで、紹介文が書ける。	人物について調べて紹介文が書ける。	あるテーマでまとまった文章が書ける。	
		あいさつ、自分の名前を含める。	人を紹介する表現を用いる。	必修トピック・選択トピックを含めた20項目より選んで書く。	一般動詞の文を含めて、15項目のトピックより選んで書く。	一般動詞、接続詞を用いた文を含めて書く。	受動態、比較の文を含めて、まとまった紹介文を書く。	現在完了形の文を含めて、まとまった紹介文を書く。	関係代名詞の文を含めて、構造的な説明文を書く。	既習事項を活用して、構造的なまとまった文章を書く。	
		E 5文以上書ける。 F 3文以上書ける。 G 1～2文書ける。		D 8文(50語程度)以上書ける。 E 5文以上書ける。 F 3文以上書ける。 G 1～2文書ける。	C 80語以上書ける。 D 8文(50語程度)以上書ける。 E 5文以上書ける。 F 3文以上書ける。 G 1～2文書ける。		B 100語以上書ける。 C 80語以上書ける。 D 8文(50語程度)以上書ける。 E 5文以上書ける。 F 3文以上書ける。		A 200語以上書ける。 B 100語以上書ける。 C 80語以上書ける。 D 8文(50語程度)以上書ける。 E 5文以上書ける。 F 3文以上書ける。		
読 む こ と	規 準	課題の内容を読み取ることができる。									
	基 準	課題の内容の「正確な読み取り」「適切な読み取り」を問う質問の正答率 A 8割以上 B 5割～8割 C 5割以下 ☆ それぞれの時期の習得の程度に合わせた読み物教材を用意し、「正確な読み取り」「適切な読み取り」に関する質問を用意し回答を評価します。教材の内容や難易度を実態に合わせて工夫します。									

表中の評価指標と評価規準は、複数の評価に関する資料をもとに設定した例です。評価指標の内容と評価規準は各学校で実態に合わせて設定してご活用ください。なお、A～Gの表記は、指導者が3年間を見通しやすくするために仮に記号を付与したもので、網掛けの部分の評価規準としています。

大阪市教育センター研究紀要第193号「生徒が主体的に取り組む言語活動のあり方に関する研究—『逆向き設計』と『ルーブリック』による中学校英語科における実践—」2010.3. 巻末資料を一部改訂